多文化共生事業事例集

年度
R3

団体名	神戸市	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業 事業費総額　　１，６７８千円	ジャンル	C 教育・子ども

事業名

外国人の子供たちが楽しい学校生活を送るために
「発達障害」と外国人児童生徒～適切な支援を目指して
～就学前・学齢期の子どもと家庭を対象としたサポート事業～

概　要

外国にルーツを持つ子供の幼児期・学齢期支援や、
発達障害を含む子育てに関する啓発資料の作成を行った。

事業のポイント

◇貧困世帯への学習支援プログラムは試験的に実施され始めているが、多文化な背景を持つ子供や家庭への対応ができる体制は整えられておらず、言葉等の問題で十分な対応ができていない。
また、生活言語は習得できても、学習言語が理解できずに学校の授業についていけない子供も多い。
このため、早期における学習言語の習得支援を行うことを目的とし、本事業を実施した。

事業の背景・目的

◇神戸市内の日本語指導が必要な外国人児童生徒は依然として増加傾向にある。また、国際結婚の増加により、日本国籍であっても日本語指導が必要な児童生徒も増加傾向にある。また、放課後における日本語指導、学習指導については、地域の NPO 団体等に大きな役割を担ってもらっているのが現状である。
更に、中学校では学習言語の習得にかなりの時間を有するため、生徒のキャリア形成にも大きな影響が出ている。

事業の詳細

（1）外国にルーツを持つ子供の幼児期支援

外国にルーツを持つ就学前の子供のための「こうべプレスクール」の実施（継続）

・多文化子ども共育センター（2022 年 1 月～2 月、全５回）
内容：就学前の子供を対象に平仮名や 10 までの数字、学校で使用する用語の学習機会の提供

・神視保育園（2021 年 10 月～2022 年２月、全 10 回）
参加者：５名（ベトナム、中国、インドネシアルーツ）

・神戸定住外国人支援センター学習教室（2021 年 1 月～2 月、全６回）
参加者：６名（ベトナム、タジキスタン、ミャンマー、ロシアルーツ）

（2）外国にルーツを持つ子供の学齢期支援

・「地域学習教室」の実施（２０２０年４月～２０２１年２月）
水・木・土曜日：神戸定住外国人支援センター（KFC）
火・金曜日：賀川記念館
内容：小学生を対象とした学習支援
（日本語や母語による教科・日本語指導）

（3）外国人保護者や教育関係者向けに、発達障害を含めた子育てで気をつけるべきことに関する啓発資料と WEB サイトの作成

・啓発資料を７言語（英語、中国語、ベトナム語、フィリピノ語、スペイン語、ポルトガル語、日本語）で 1000 部作成
・保護者や神戸市内の外国人支援団体などに配布
・啓発資料の神戸定住外国人支援センター（KFC）ウェブサイトへの掲載

小学生の学習支援の様子

保育園内のプレスクールの様子

事業実施における工夫点・事業の成果等

●事業実施における工夫点

大学生や、元小・中学校の教員の方の協力を得て、学習支援を実施した。またスクールソーシャルワーカーと連携し、平日は弟の面倒を見るため学習機会を持てていない小学生のために、土曜日も学習の場を新たに開設することで、学習機会の提供と食事（お弁当）提供やフードパントリーなどの生活支援もあわせて行った。
近隣小学校とは、グローバル読書の会の開催など、今年度も連携して外国人児童が読書に触れる機会の提供に努めた。
また留学生や神戸定住外国人支援センターの卒業生である外国ルーツの大学生が中国語やベトナム語などの母語を用いた支援を行った。
そのほか、学校で発表ができるようになればと考え、グループに分かれて母文化の食べ物についてまとめて発表する機会を持ち、保護者にも参観していただいた。

●事業の成果

外国にルーツを持つ就学前の子供のプレスクールを 2 か所で実施し、計 11 名が参加した。また、学齢期支援として学習教室を 179 回実施し、小学生延べ 1,757 名、支援者延べ 1,446 名が参加した。
また、発達障害の啓発資料を日本語を含む 7 言語で作成し、1,000 部配布するとともに、神戸定住外国人支援センター（KFC）ウェブサイトにおいて資料を公開した。

子育てに関するパンフレット

今後の課題・（コロナ禍の状況を踏まえた）将来に向けての展望等

コロナ禍で友達同士の遊びや会話が減っているためか、これまでより渡日年数の浅い児童・生徒の日本語の習得が遅いように感じている。そんななか 2022 年に入っても、学校・学級閉鎖などが続き、学びの場が保障されにくい状況が生まれている。
日本語がまだ十分でない児童・生徒が一人で学習するのは限界があるため、引き続き、家庭学習できる教材やオンラインでの学習の提供、学習支援日時の増加など、さらに学びが途絶えないような支援をニーズに合わせて柔軟に検討していきたい。

神戸定住外国人支援センター学習教室でのプレスクールの様子

事業担当者のふりかえり

・コロナ禍で様々な不安を抱える家庭への生活支援や学習が継続しにくい現状を改善するため学習支援の場の充実化を図り、ヤングケアラーとなっている子どもの支援など、関係する方々と協力しながら、きめ細やかな支援に取り組むことができた。
・OECD によると、就学前教育を受けていた子どもは 15 歳時点での進学率が高い傾向にあるということから、就学前の支援にさらに力を入れていきたい。